

第 三 者 意 見

NTT西日本グループが取り組むCSRの特徴は、「社会的価値」「経済的価値」「人間的価値」の3つの価値増大を図ることを基盤として、この考え方をいかに組織の中に浸透・定着させ、実践につなげるかに重きを置いていることにあると言えます。言うまでもなくCSRは実践することに意味があり、そのためには組織の末端までCSRの趣旨をしっかりと理解して、個人個人が自主的に参画する風土づくりをすることが必要になります。この点、NTT西日本グループは、トップマネジメントがリーダーシップを発揮し、CSRと経営活動を一体のものとして把握していることが印象的であり、例えば、全グループ企業トップを集めての研修会「CSRトップセミナー」を恒例化して、3つの価値をトップ自らが共通言語化しようという能動的な姿勢にもこの精神がよく現れていると感じます。

NTT西日本グループのCSRは、2006年度の「理解促進」でその狙うべきところ、意味の理解を組織的にを行い、2007年度に「実践と定着」をテーマとしました。この中で特にアクションプランとして作成した『CSR20』こそが、NTT西日本グループのCSRをよく体現した最大の特徴と考えます。『CSR20』とは3つの価値を体現する20の指標を掲げ、この数値目標の達成度を通じてPDCAを回そうと意図していることです。CSR活動を定量的に評価することは、欧米企業では事例が見られますが、日本企業ではまだまだ取り組む企業が少なく、この点でNTT西日本グループの取り組みは賞賛に値すると思います。

しかしながら、本報告書を拝見すると、『CSR20』の指標の考え方は掲載されているものの、具体的な指標・数値目標とその達成度は内部管理用に留められております。先進的であるがゆえに指標の取り方やその運用はまだ試行錯誤的なところがあるのだと思料しますが、CSR活動を実践・定着させて初めてCSRに取り組む価値があるとの貴社の方針に照らせば、来年度以降に具体的な数値目標とその達成度を公表して、日本企業のKPI (Key Performance Indicator) ベストプラクティスをめざしていただきたいと考えます。

また、本報告書を読んで、NTT西日本グループがCSR活動をさらに良いものに発展していくために、3つの課題を以下に挙げたいと思います。

第一に、社外のステークホルダーの声をいかにCSRに活かしていくか、という点です。本業を通じたCSR実践をめざすことから、社外の声に耳を傾け、常に自らの立ち位置を認識して、課題に取り組む姿勢が必要です。そのためにステークホルダー・ミーティングを開催するのも一考でしょう。

第二に、取引先、パートナー業者への働きかけをより積極的に行うことです。昨今ではサプライチェーンの中でいかにCSRに取り組んでいくか、いわゆるCSR調達の方法が一般的になってきています。NTT西日本グループの業容から考えてもかなりの資材購買がありましょし、また最近では海外ベンダーからの調達も多くなってきていると伺います。こうした取引先企業を含めてCSRにどのように取り組むかという視点をより強く持つことが必要です。そのためにはCSR調達が先進的な業界、例えば、電機業界や自動車業界の取り組みを参考にすることも必要だと思います。

最後に第三点として、NTT西日本グループの顔となるCSR活動を行っていくことです。2008年度より環境面の取り組みを軸にすべく活動をスタートしています。本年度は情報機器のリユースなどを徹底していく方針と伺っていますが、さらに取り組みを深耕させ、「NTT西日本グループと言えば、あの環境活動」と連想させる骨太の取り組みに育ててほしいと考えます。



株式会社
クレイグ・コンサルティング
代表取締役

小河 光生氏

Profile

1987年 早稲田大学卒。
自動車関連メーカーを経て、1992年ピッツバーグ大学経営学修士(MBA)。
株式会社三和総合研究所、PwCコンサルティングを経て2004年から現職。
近著に「CSR 企業価値をどう高めるか」(日本経済新聞社)がある。
クレイグ・コンサルティング ホームページ <http://www.craig.co.jp>

第三者意見を受けて

2007年度におけるNTT西日本グループのCSR推進活動は、社員一人ひとりが、CSRの「実践と定着」を図るため、20項目からなる具体的な行動指針「アクションプランCSR20」を策定し、本業を通じた日々の実践に努めてまいりました。

ご指摘の「アクションプランCSR20」の具体的な指標・数値目標の公開につきましては、2007年度に初めて具体的な目標値を設定し「実践と定着」に向けた試行的な取り組みを始めたところであり、ご指摘いただいた3つの課題とあわせて、さらにCSR推進活

動の実践面においてステップアップしていきたいと考えております。

最後になりましたが、この報告書により、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの環を広げることができれば幸いです。これからも、NTT西日本グループでは、さらなるCSR推進活動の充実を図り、持続可能な社会の実現に貢献できる企業をめざします。

西日本電信電話株式会社
総務部 CSR推進室